



*Yoshi Nakamura*

CONCERTINO  
di KYOTO



### ●堤 俊作 (指揮)

1947年大阪生れ。斉藤秀雄氏に師事。  
 1970年桐朋学園大学音楽部を首席で卒業。  
 1971年東京交響楽団副指揮者に就任。  
 1972年東京交響楽団を指揮してデビュー。  
 以来、国内主要オーケストラに客演、オペラ、バレエ、合唱等で活躍。  
 1973年デンマーク放送管弦楽団を指揮、ヨーロッパ楽壇にデビュー。同年東京

交響楽団正指揮者に就任。

1974年東京ユースシンフォニーのヨーロッパ公演、ロンドン・サドラーズ・ウェルズ劇場で蝶々夫人を指揮、ロンドンでのルパート指揮者コンクール入賞。英国、北欧での評価を得る。

1975年東京シティー・フィルを創立、同オーケストラを率いてヨーロッパ演奏旅行を行う。

1978年9月ジュネーブでのエルネスト・アンセルメ指揮者コンクール優勝。

現在、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団音楽監督、常任指揮者、桐朋学園大学講師。

### ●中西 祥之 (ファゴット)

1968年桐朋学園大学音楽学部を卒業。日本フィルハーモニー交響楽団に入団  
 1969年渡米、インディアナ大学のレナード・シャロー教授の助手、インディアナ・フィルハーモニーの首席奏者となる。  
 1970~71年インディアナ大学に於るリサイタル、アスペン・フェスティバル・オーケストラ等で活躍。その後、帰国  
 1971年桐朋学園大学講師。  
 1972年JFAMA代表ディレクター。帰国リサイタル。  
 1973年ロンドン・シンフォニー・オーケストラ・カナダ首席奏者、カナダ・ニュー・チェンバーウィンズ首席。  
 1975年名古屋フィルハーモニー交響楽団に入団。その後、多数の指揮者との共演、多数の日本初演を行う。  
 1979年愛知県芸術選奨励文化賞受賞。著書に「現代バスーン奏法」がある。



## コンチェルティーノ・ディ・キョウト

才能教育研究会京都支部の指導者、新井覚とチェロ科指導者の野村武二、そして京都在住の指揮者、井手章夫が中心となり、才能教育研究会京都支部研究科の優秀な卒業生たちを集め、1958年に創立した弦楽合奏団である。

以来1977年まで井手章夫、高橋利夫の2人の指揮者のもとに活発な演奏活動を続け、フルート・吉田雅夫、ルイ・モイーズ、高橋利夫、オーボエ・丸山盛三、ビオラ・河野昌彦、チェロ・斉田出、ピアノ・辛島輝治といった一流演奏家たちとも協演をしてきた。

1978年より才能教育出身の指揮者でジュネーブ・アンセルメ指揮者コンクールの優勝者である堤俊作を指揮者に迎え合奏にさらに磨きをかけ、関西におけるこの合奏団の評価を不動のものとした。

1979年5月、やはり才能教育出身のチェリリストでベオグラード国際チェロコンクールの優勝者である林峰男と堤俊作のコンビと共に東京公演を行い大成功を収めた。

バイオリン・ビオラの奏者全員が新井覚の門下生で統一されている。これはアンサンブルの面での何にも勝る強味であり、他の合奏団にはないこの合奏団の特色である。

### ●第1ヴァイオリン

田 中 信 介  
 水 野 敬 子  
 竹 本 まや子  
 高 木 泉  
 円 城 めぐみ

### ●第2ヴァイオリン

松 村 裕美子  
 田 原 明 子  
 小 泉 佐知子  
 西 村 明 男

### ●ヴィオラ

江 村 孝 哉  
 仲 佐 悦 子  
 新 井 覚

### ●チェロ

壁 瀬 雅 彦  
 森 田 健 二  
 林 峰 男♪

### ●コントラバス

森 田 昭  
 今 村 れい子♪

### ●ピアノ

永 田 悦 子

### ●オボエ

辻 野 浩 一♪  
 有 馬 博 隆♪

### ●ホルン

小 山 亨♪  
 朝 倉 洋♪

(♪印客演)

## 曲目解説

### ブロッホ作曲 コンチェルト・グロッソ第1番

この曲は、1924年から1925年にかけて作曲されたもので、弦楽合奏にピアノ・オブリガートを伴う編成で書かれています。独奏ピアノを伴っているとはいえ、ピアノ協奏曲の様な形式ではなく、あくまでオブリガートとしてのピアノであり、又、弦楽合奏の各楽器も、音楽様式的にトゥッティと対比するソロの部分を持ち、バロック時代のコンチェルト・シンフォニアの形体をとっています。

ブロッホ特有の詩的な魅力に満ちた作品です。

### レヴィ作曲 ファゴット協奏曲

フランク・レヴィは、1930年生れの現代作曲家で、この曲は、1961年4月17日にニューヨークで作曲されました。全楽章を通じ、新しい記譜方法を使用し、拍子記号が無く、毎小節拍子が変わり、リズムが変更するという複雑な変拍子を使用しているため、ほとんど演奏されたことがありません。日本では、当夜のソリスト、中西祥之氏と、堤俊作氏指揮の名古屋フィルハーモニー交響楽団によって、1978年10月31日に本邦初演が行なわれました。

### モーツァルト作曲 ファゴット協奏曲 変ロ長調 K.191

この曲は、1774年ミュンヘンのテュルニッツ男爵の依頼によって作曲されたもので、作曲者としては、最初の管楽器の為の協奏曲です。この曲においては、当時のモーツァルトのフランス風なギャラントなものに対する志向を反映しており、宮廷風の雅びた雰囲気を持つと同時に、ファゴットという楽器の持つユーモラスな気分と、名人芸が表出されています。

### バッハ作曲 ニールセン編曲 シャコンヌ

バッハのシャコンヌと言えば、バッハの器楽作品の最高峰ともいえるべき作品ですが、作曲者が、多くの室内楽作品を書いたケーテン時代（1717年～1723年）に創られた、独奏ヴァイオリンの為のバルティータ第2番の終曲です。このバルティータに於て、シャコンヌの占める割合は、その他の部分よりも長大で、単独で演奏されることも多く、又、編曲としては、プラームスやブゾーニによるピアノの為のもの、ストコフスキーによるオーケストラの為のもの等が有名ですが、今夕はニールセンによる弦楽合奏の為の編曲によって演奏されます。

## プログラム

### コンチェルト・グロッソ 第1番……………ブロッホ (弦楽合奏とピアノのための)

《プレリユード》  
《挽歌》  
《牧歌と農民の舞曲》  
《フーガ》

### ファゴット協奏曲……………レヴィ

モルト・アダージョ～アレグロ  
レント・エ・モルト・ソステヌート  
アレグロ・ヴィヴァーチェ

### ファゴット協奏曲 変ロ長調 K.191……………モーツァルト

アレグロ  
アンダンテ・マ・アダージョ  
ロンド／テンポ・ティ・メヌエット

### シャコンヌ（本邦初演）……………バッハ～ニールセン

- 家電製品・オーディオ製品（試聴室有り）
- 歳末大売出し12月7日より12月31日まで
- 1980年カレンダー進呈
- 抽せん会（1万円以上お買上げの方）
- 専用駐車場有り

# アサヒムセン

京都市中京区河原町三条上ル東 TEL 231-4212